

=====

～航空局からのお知らせ～

=====

★夏季運航における注意点（TEMのすすめ）について～航空従事者試験官より～

「夏」と聞いて皆さんは何を連想しますか？

夏、青い空、青い海、水着、南の島のバカンス・・・、なんだかワクワクする言葉を連想する方がほとんどかもしれません。夏、青い空、白い雲、積乱雲、ゲリラ豪雨、雷、高温多湿、低高度でも薄くなる空気・・・、TEM（Threat and Error Management）の考え方を知ると、どうしてもスレットを出してしまって、暗い気持ちになりますね。一種の職業病でしょうか？

スレットを出したついでですし、もう少し考えてみましょう！！

- ・青い空・・・さすがにスレットになりにくい。でも、もし雲が全くない青空なら、焦点が近くにあってしまいう空中近視になって鳥と衝突してしまうことがあるかもしれません。
- ・白い雲・・・有視界飛行状態を維持するためには近づいちゃダメですね。
- ・積乱雲・・・ダウンバーストや風の急変に伴う着陸失敗やホバリングが不安定になることも十分にありそうです。
- ・ゲリラ豪雨・・・大粒の雨ですから飛行視程は急激に悪化するでしょう。有視界飛行状態を維持することが難しくなるかもしれません。また、多くの水分をエンジンが吸い込むと出力の低下につながるかもしれません。
- ・雷・・・被雷すると外板に穴が開いたりするかもしれません。電子機器がおかしくなるかもしれません。飛行中だけでなく、エプロンを歩いている時や航空機をけん引している時に被雷するかもしれません。
- ・高温多湿・・・空調が装備されていれば、さほど問題になりませんが、ほとんどが装備されていない小型機ですと、外気温度計が50度を超えることはざらにあります。熱中症になることは十分に想像できます。
- ・薄い空気・・・揚力方程式からも空気密度が低下すると揚力は減少します。エンジンについても入ってくる空気の量が減少するわけですから性能が低下します。離陸できると思ったけど滑走路が足りない。ホバリングできると思ったけどできない。良く聞ことのある事故原因のような内容ですね。

このようなスレットは常に存在し、エラーやUAS（Undesired Aircraft State）になる可能性があります。その可能性を低減する対策を講じること（Threat Management）が大切です。

例えば、空中近視にならないように山の稜線に視点を時々うつしてみよう。とか、密度高度が高いからしっかりと性能チャートを参考に性能を把握して飛行に臨もう。などのように難しく考えず、とりあえずトライしてみたら、あなたの危険回避率は飛躍的に向上するかもしれません。いや、必ず向上するでしょう。

これらは想像の世界だから良いのであって、実際に体験し怖い思いをしないですめば、それにこしたことはありません。

最後に、特定操縦技能審査の口述ガイダンスは、これまで年1回程度の頻度で更新されているのをご存知ですか？ 特定操縦技能審査を受けるまでとっておかず、日ごろの知識の再確認に、最新の口述ガイダンスを役立ててみましょう。すごく便利なツールですよ。

○リーフレット集（TEMを活用したリスク予防に関するリーフレットも含む）

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000014.html

○特定操縦技能審査口述ガイダンス

http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr10_000009.html

国土交通省 航空局 安全部運航安全課

MAIL : hgt-kogataki@ml.mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111（内線 50135、50136）

小型機安全担当
